

## 平成25年度 入社式社長訓示

株式会社 熊谷組  
取締役社長 大田 弘

### 希望と不安の交錯ー成長の定義のリセットー

皆さん、入社おめでとございます。

今日から、熊谷組の次の世代を担う55名の皆さんと、一緒に仕事ができることを大変喜ばしく思います。

熊谷組に入社をされた理由はそれぞれ異なります。生活の糧を得ることが第一目的であることは共通だと思いますが、何故(なにゆえ)に建設業を、何故に熊谷組を選択したのか、は当然ひとそれぞれであります。仕事についてみて、思った通り自分に合っていそうだ、こんなはずじゃなかったなど今日からが希望と不安の交錯・葛藤の開始となります。

私は、先ず持って“ガムシャラ”を薦めます。辛いこともある、辞めたくなることもあると思いますが、容易に決め付けず、諦めず、ガムシャラにやってみて初めて判ることがある、気付くことがあると思うからであります。そこまで辿り着いて、立止まってみることを是非、お薦めしたいと思います。

もう一点、立派な人、先輩でも同僚でも、身近に居る立派な人を真似ること、物真似を薦めます。いやな人に出会った時に思い悩む時間はモッタイないので、あまり気にしないで尊敬する人、素晴らしい人を真似る努力をする、その素晴らしい人まで辿り着いたら別の立派な人を探して真似る、それを繰り返している内に、皆さん方の元々持っている個性、持ち味、自分らしさに磨きがかかり、生き活きとした会社生活を送れると思います。

是非、このふたつ、“ガムシャラ”と“物真似”を実践して頂ければと思います。

さて、一昨年不幸な東日本大震災の発生、経済デフレが続く日本、日本は大きな転機を迎えています。大震災は我々に、自然との交わり方、向き合い方をヒトと云う些細なひとつの生物に立ち戻って、考え直せ！と警告したものと思います。また、耳を塞ぎたくなる様な社会犯罪・経済犯罪の発生は我々の心の奥底に内在する醜さを映し出している鏡のようなものなのかも知れません。

今日の日本は、皆さん方の祖父母、ご両親が必死になって気付き上げてきた豊かな社会であります。しかしまた、一方で混沌とした空虚な社会であるとも云えます。我々

が信じてきて来た成長、価値感を持続性と云う点で限界に達しているのかもしれませんが。成長の定義をリセットする、新たな成長感・価値観を模索する時代に皆さん方が遭遇していると云うことであります。

皆さん方の熊谷組志望理由を拝見しましたが、トンネルの熊谷、台北101の熊谷、“お客様に感動を”の熊谷、現場主義の熊谷など様々であります。私は黒部の太陽に憧れて熊谷組に入りました。入社のも動機は大切にしつつも、その達成のさらに先にあるものも見つめて自分ならではの成長を目指して頂きたいと思ひます。

豊かさ引き換えに日本の強みであったとされる“チーム力”が劣化する一方であるとの指摘があります。チーム力、それはお互いが信頼し合い、お互いが感謝し合い、お互いが力を合わせ、目標に立ち向かって行くことと云うことであります。特に、建設業はチーム力が必要とされます。建設業は50年後、100年後に評価される任務を担います。駅伝レースに例えれば、心臓破りの坂を駆け上がる区間を走る人もいれば、平坦だが長距離を走る人もいます。前のランナーが遅れた分を次のランナーが取り戻すことも必要となります。

建設業は単にものを造るだけではなく、日本の強み、チーム力の象徴でもあります。日本人の素晴らしい生き方、力を合わせる文化の防人(さきもり)とも云えるわけでありまひす。

皆さん方がこれからする仕事の最終評価は皆さん方が熊谷組を卒業した後に下されます。それを良しとする『志』や『覚悟』を持つことに魅力と誇りを感じて頂きたいと思ひます。

皆さんの成長は、熊谷組の成長にそのまま直結します。

活躍を期待します。

以 上